

“救う”と“任務”の意味を持つ「たすく」。西尾市民病院の想いを伝える広報誌



たすく

t a s u k u

Vol.
3

2026年
7月号

救急医療



contents

- メディカルアカデミー
「熱中症」
- フォーカス メディカルワーカー
「救急看護認定看護師」
- クローズアップ！ 施設案内ガイド
「陰圧室」
- お手軽！おすすめレシピ
- ピックアップ！ みんなの声
- たすくReport

24時間市民を支える救急医療

当院は地域の二次救急病院として、24時間365日体制で救急外来の対応にあたっています。重要な戦力として複数の研修医を確保し、上級医のバックアップのもと、日々の救急医療を安全に提供できるように努めています。

上級医、研修医、
多職種が連携して
迅速で安全な救急医療に
努めています。



profile

副院長／循環器内科

こやす まさよし
子安 正純先生

2000年名古屋大学医学部卒業。2026年度より現職。日本循環器学会循環器専門医、日本内科学会総合内科専門医。当院では、循環器内科の診療とともに救急医療も統括する。



研修医は、指導やサポートを行う上級医から救急の現場で日々さまざまな経験を積んで学んでいく

研修医が大きな戦力

地域の二次救急を支える

当院は、二次救急病院として地域の救急医療を担っています。当院の救急医療の大きな戦力は研修医であり、1学年5人、計10人の研修医が、救急を受診された患者さんを最初に診るファーストタッチを担当。夜間は、研修医のほか、内科系1人、外科系1人の上級医が常にバックアップで診療できる体制となっています。看護師は、基本的には3人前後の配置で、必要に応じて補充可能な人員がそろっています。そのほか、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師など多職種と密に連携し、24時間365日救急医療を展開しています。

どんな症状も真摯に対応

災害医療にも万全の備えを

私たちは、スムーズに患者さんを受け入れ適切な治療につなげるため、まずは、大動脈解離や急性冠症候群、心筋梗塞といった重大な疾患を想定し、あ

る程度の予測を立てることで、初動に遅れがでないように心がけています。

迅速な判断が求められる救急の現場ではありますが、緊急性が高いかどうか、検査の必要性が本当にあるのかなど、判断に迷うことも少なくありません。そのときは必ず患者さんの目線に立ち、私たちが患者さんのためにできることは何かを考えて行動しています。研修医が悩んだときに気軽に相談できるよう、上級医はフットワークを軽くしてアドバイスすることで、安全性を担保しています。

また、当院では地域での大規模災害に備えて、防災訓練やトリアージ訓練を実施しています。薬なども備蓄し、災害時であつてもできる限り病院機能を維持し、地域医療の最後の砦として市民の皆さんをお守りできるように体制を整えています。どのような症状であつても心配なときはいつでも受診してください。そのための救急医療であり、そのために私たちは日夜の業務に励んでいます。

〔 当院の救急診療の流れ 〕

ウォークイン

ウォークインとは、救急車を使用せず自力で病院を訪れることで、骨折や脱臼、尿路結石、包丁で指を切ったなど主訴はさまざまです。

受付・看護師によるトリアージ

受付後、看護師が患者さんの状態を確認します。血圧や酸素の値を測定後、患者さんが問診票に書かれた内容の詳細を聞き取り、重要事項は医師に引き継ぎます。緊急度が高いときは速やかに検査や治療へつなげます。

医師によるファーストタッチ

受付、トリアージが済んだら、医師が診療し、酸素投与や蘇生術を含む最初の処置を担当します。血液検査や心電図、放射線検査などの各種検査を行い、結果をもとに当日帰宅できるか入院が必要かを判断し、調整の上で専門診療科あるいは救急外来で治療をします。

救急車

重度の症状があるときはもちろん、ウォークインか救急車が迷ったときは、救急車を呼んで、受診してください。救急車では車内で救急救命士がバイタルチェックを行い、病院に到着後すぐに治療ができるように情報共有しています。

当院の救急現場のポイント ①

急性心筋梗塞などへの 24時間365日 カテーテル治療が可能

心筋梗塞など急性冠症候群に対する心臓カテーテル検査・治療が行える体制が整っています。救急車から急性心筋梗塞の可能性があるといた情報が入った段階で、緊急カテーテル治療を行えるかを当番の循環器内科の医師に確認するなど、より迅速な対応に努めています。

当院の救急現場のポイント ②

夜間も各科の医師が待機 日中に近い 診察・処置が可能

幅広い患者さんを受け入れるため、各診療科から救急外来に交代で医師を配置し、あらかじめスケジュールを組んでいます。救急外来から連絡が入ると担当医が速やかに対応。スピード感とともに、できるだけ日中と同じ診療ができることを大切にしています。

当院の救急現場のポイント ③

多職種による チーム医療で 迅速に適切な処置を行う

救急は多職種とのチーム医療で成立します。看護師はベテランぞろいで研修医を常にバックアップしているほか、検査画像について診療放射線技師と協議をしたり、中毒や投薬について薬剤部に相談できる環境が整っており、迅速かつ適切な処置ができています。

私たち研修医は
日々、切磋琢磨中

心配なときは無理をせず、
迷ったら救急車を呼んで、受診を



胸の痛みや骨折など緊急度の高いときはもちろんですが、風邪の症状や頭が痛いといったよくある症状でも、心配や不安を感じるときは 24 時間いつでも病院に来てください。ウォークインか救急車か迷うときは、無理せず救急車を呼んでいただいても構いません。結果的に軽症であれば、私たちもほっとします。どのような状態でも適切に対応させていただきますので、無理せず救急車の利用をご検討ください。

救急の現場に欠かせないのが研修医です。
日々、活躍中！ 右から森田修平先生、高橋
佑実先生、北川満帆先生。



熱中症

副院長／循環器内科
子安 正純

2000年名古屋大学医学部卒業。2026年度より現職。救急の現場で活躍。

私が
解説
します！



「熱中症」 とは？

熱中症は、高温の環境下で発汗による体温調整がうまくいかず、体内に熱がこもることです。さまざまな症状が見られる状態です。屋外だけではなく、室内でも何もしないときに発症することもあり、適切な予防と発症時の速やかな対応、そして、必要に応じて医療機関を受診することが大切です。

熱中症は、夏になる前の5～6月から増え始め、最も多い7～8月は、特に対策と予防が重要です。主な対策は、暑さを避けることとこまめな水分補給で、水分は1日あたり1.2ℓ、コッ

プ約6杯の水分を目安に、喉が渇いていなくても口にするのが望ましいとされています。

また、エアコンを適正に使用することも有効ですが、一方で熱中症死者のうち6%はエアコンを使用していたというデータもあります。特に高齢者は、暑さに対する体の感覚機能や調整機能の低下から、適切にエアコンを使っても熱中症になる可能性があります。そのため注意が必要です。同様に、体温の調整機能がまだ十分に発達していない子どもや、体温調整が難しい障害のある方については、周囲がより一層気を配ることで予防に努めていただければと思います。

熱中症の症状には、めまい、立ちくらみ、生あくび、大量の発汗、筋肉痛、筋肉のこむら返りなどがあり、さらに重症化すると頭痛、嘔吐、倦怠感、判断力や集中力の低下、虚脱感が発症します。場合によっては命に関わるため、冷却などの応急処置をしても改善されない場合は、速やかに医療機関を受診することをおすすめします。

3つの深掘り

1

熱中症予防のために 気をつけたいこと

外出時は日傘や帽子で直射日光を避け、特に天気の良い日は日陰を積極的に選び、こまめな休憩を意識しましょう。熱がこもらないように通気性の良い衣服を着用する、保冷剤や冷たいタオルで体を冷やすことも効果的。屋内ではエアコンを上手に使用してください。

2

熱中症かなと思ったら 自分でできる対処法

応急処置としてはまず、エアコンが効いている屋内や風通しの良い日陰など涼しい場所へ移動し、服を緩めて体を冷やします。特に首の周りや、わきの下、足の付け根を中心に冷やすのが有効です。体の表面の温度を下げた後、水などが飲めそうであれば、水分を補給しましょう。

3

応急処置では改善しないときの 医療機関受診の目安

応急処置でも改善しない、水分が摂れない、反応や応答がおかしい、意識の状態が悪いなど重篤な症状があるときは迷わず救急車を呼びましょう。病院では、体を冷やしてから、血液検査や、点滴による水分補給や体内の電解質のバランスを整える治療をします。重症の場合は入院になることもあります。



効率的に体内外の熱を下げるため冷やしながら点滴を行う。



フォーカス Focus メディカルワーカー

西尾市民病院を支えるスタッフをご紹介します

【救急看護認定看護師】



救急看護認定看護師は、日本看護協会認定の研修、審査を経て取得する資格で、救急看護のスペシャリストとして幅広い活躍が期待されています。

相沢 努 看護師 /
2000年4月入職

交通事故で搬送された小児の救急対応の経験をきっかけに、さらに現場で生かせる知識や技術を身に付けたいとの思いから、救急看護認定看護師をめざす。同時に特定行為看護師の資格も取得。



患者の状態に合わせて人工呼吸器の設定を適時変更。患者の負担軽減を図る。

知識と経験を生かして
救命処置を迅速に適切に

救急看護認定看護師は、看護師歴5年以上、そのうち救急に関する分野で3年以上の看護師が研修、試験を受けて得る資格で、私は同時に特定行為看護師の資格も取得しました。それによって、動脈採血や肺動脈採血、人工呼吸器の設定の変更、血圧のお薬の調整などの医療行為も行えるようになり、救急現場での仕事の幅が広がりました。

また、医師が診断や治療を決定するための思考プロセスを学んだことで、医師とより深く病態について話し合えるようになり、適切な看護に結びつけてい

ます。患者さんやご家族に対しては、漠然とした不安ではなく、心理的な要望を捉えた上で、安心していただくためにはどうすれば良いかという視点で、深く寄り添うことを心がけています。

今年度からは、「ラピッド・レスポンス・チーム」を立ち上げ、入院中患者さんに急変を起こさせないための取り組みもスタートしました。当院は、「いつでも頼られる医療」を理念とし、24時間365日、救命を使命に、市民の皆さんのために頑張っています。困ったときは、無理をせず、救急車を使用して病院に来ていただければと思います。



新任看護師向けに蘇生の研修も実施。病棟看護師の教育にも熱心に取り組む。

CLOSE-UP!

クローズアップ!

施設案内 ガイド

普段、患者さんからなかなか見えない
院内のリアルを紹介します

手術室に陰圧換気を搭載

二次感染を防ぐ



感染症やその疑いのある患者を安全に受け入れることで、二次感染予防に努めている。

特に救急外来では、抗がん剤治療中の患者さんなど、状態が悪い方や免疫力が低下している方も同じ空間にいるため、その

まざまな感染対策のもと、感染症の疑いのある患者さんを受け入れ、ほかの患者さんに感染させない環境を整えていきたいです。

感染のリスクを最小限に抑えることができました。
また、患者さんにはもちろん、私たち医療従事者も安心することができ、安全に医療を提供することにつながっています。
これから、陰圧室をはじめさまざまな感染対策のもと、感染症の疑いのある患者さんを受け入れ、ほかの患者さんに感染させない環境を整えていきたいです。

〔陰圧室〕

室内の気圧を室外より低くし
ウイルスや細菌を外に出さない部屋

私がご紹介します!



救急看護認定看護師 相沢 努

結核など空気感染で広がる疾患で使用
安全な診療で感染リスクを最小限に

陰圧室とは、室内の気圧を室外よりも低くすることで、ウイルスや細菌が外に出ることを防ぐための病室です。
当院の陰圧室は、もともとは手術室として作られています。南海トラフ地震などの大規模災害が発生した際、万が一、二階の手術室が機能しなくなっても、緊急手術に対応できるように一階の救急外来に設置されま

した。この部屋には、陽圧換気と陰圧換気という室内の空気の圧力を調整するシステムが搭載されています。陰圧室として使用するとき、基本的には、結核など空気感染で広がるような疾患、または



フィルター付き換気口から空気を吸い込み、気圧を低く保ち、ウイルスや細菌が外に出ないようにしている。



健康を意識した食材の豆知識と、
手軽に作れるレシピを
栄養士目線でご紹介します。

豚肉に豊富に含まれるビタミンB1は疲労回復に役立ちます。また、玉ねぎに含まれるアリシンと一緒に摂ることで体への吸収効率が向上します。

豚しゃぶ ～玉ねぎのドレッシングかけ～



【材料】4人分

(豚しゃぶ)

豚肉肩ロース

(しゃぶしゃぶ用)……240g

キャベツ……80g

ミニトマト……4個

(ドレッシング)

玉ねぎ……100g(1/2個程度)

サラダ油……40ml

酢……40ml

醤油……40ml

うま味調味料(味の素)
……適量

すりおろしにんにく

……小さじ1杯

砂糖……小さじ1杯

コショウ……少々

【栄養価】1人分

エネルギー: 270kcal

たんぱく質: 12g 塩分: 1.6g

Point

【調理のポイント】

通常の玉ねぎより、新玉ねぎは水分が多く辛みが少ないため、生食の場合は新玉ねぎがおすすめ。玉ねぎは炒めて使うと、加熱によって甘みや香ばしさが増します。また、日持ちしないので早めに食べきりましょう。

【作り方】

- ①玉ねぎをざく切りにする
- ②ドレッシングの調味料と①をミキサーにかける(ブレンダーでも可)
- ③キャベツを千切りにしておく。ミニトマトはヘタを取り洗っておく
- ④沸騰したお湯に豚肉を入れて、火が通ったら取り出す
- ⑤器に③を敷き、豚肉とミニトマトを盛りつけ、上からドレッシングをかける

Pick-up!



ピックアップ! みんなの声

当院に通院・入院されていらっしゃる患者さんからいただいた貴重なご意見をご紹介します。

voice no.03

デイルームにあった
本や雑誌を
戻してほしい

本や雑誌がなく、入院中
することがなく退屈です

感染拡大防止のため撤去した本を戻してほしい、というご意見をいただきました。

answer

Wi-Fi 環境を整えています
携帯電話やタブレットをご利用ください

この度は貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。当院では新型コロナウイルス感染症の流行以前はデイルームなどに本を置いていましたが、感染拡大防止の観点から撤去いたしました。現在は、本のご利用ニーズの変化や、今後もさまざまな感染症が流行する可能性などを踏まえ、引き続き本の設置は行わない方針です。なお、院内ではWi-Fi環境をご用意しておりますので、お手持ちのスマートフォンやタブレットなどをご利用いただけますと幸いです。

皆様のご意見を反映し、より良い院内の環境づくりに努めます。
院内に投書箱を設置しておりますので、ぜひご意見をお聞かせください。

たすく tasuku Report

新規採用職員研修を 実施しました

令和8年4月、西尾市民病院に新たに26名の仲間（研修医5名、看護師13名、臨床検査技師4名、事務職員4名）を迎えました。着任にあたり、新規採用職員を対象とした研修を行いました。初日には田中俊郎院長が「プロフェッショナリズム」をテーマに講話を行い、医療人としての心構えを学び、研修では、各部署の役割説明に加え、公立病院職員としての倫理観や接遇マナー、さらに情報セキュリティや災害対策など、当院で働く上で不可欠な知識について理解を深めました。

新職員たちは、期待と緊張を胸に、地域の健康を支える一員として第一歩を踏み出しました。これから皆様の安心を支える医療人として成長してまいりますので、温かいご支援をよろしくお願いいたします。



同期入職者26名が一同に集まり、職種を超えて交流をしながらそれぞれの役割や仕事に対する意識を高めた

入職初日、緊張した面持ちで研修を受け、新職員たちは田中俊郎院長からの熱いメッセージを受け取った

DATA

【日時】令和8年4月1日(水)
2日(木)
【参加】新規採用職員26名

田中俊郎院長

